

伝染性膿痂疹（とびひ）

愛媛医療生協

【原因】

虫刺されや擦り傷を搔いたあとなどに起きることがあり、主に「黄色ブドウ球菌」の感染が原因です。「化膿性レンサ球菌」や、上記 2 種類の細菌の混合感染をおこすこともあります。

【潜伏期間】 1～3 日

【症状】

皮膚を搔いているうちに、粟粒～豆粒くらいの水疱ができ、中の液が透明から淡黄色に濁ってきます。水疱は破れやすく、その部分を搔いた手で他の部分を搔くと、水疱が次から次へと広がっていきます。

【治療と看護】

- 予防および治療は、全身を清潔にすることです。浴槽での入浴は、他の部位や家族にうつすので、シャワーか行水とし、石鹸の泡でやさしくきれいに洗います。爪は短く切り、伝染を防ぐためタオルは別にして、洗濯物は熱湯か逆性石鹸につけたあと洗います。
- 局所の処置は、消毒薬のイソジン液かヒビテン液で、膿疱はつぶし、かさぶたはのけるようにして消毒します。約 3 分間放置後、石鹸で消毒液をきれいに洗い流します。その後、抗生剤の軟膏を綿棒などで塗布し、清潔なガーゼで薄く覆います。カットバンはとびひを広らせるため、使用を避けてください。
- 病変部が広いときは、抗生物質の内服が必要です。通常 48 時間後には乾燥してきます。指示通りにきちんと内服して下さい。
- ステロイド軟膏を使うと悪化することがありますので注意が必要です。

【隔離】

他人にも伝染するので、急性期で症状のひどいとき、露出部にできていてガーゼ等で覆えない場合は、集団生活を禁止することがあります。

【ヒビテン浴】

とびひが全身に広がっている場合は、ヒビテン浴を行うことがあります。5%ベンクロシド液を 250 倍希釈して（例：液 40ml に湯 10ℓ）沐浴を行います。自宅の床の清拭を行う場合は 100 倍に希釈して行います。

(2009.9)